

≪連携協力の概要≫

- 関係自治体・団体等による推進体制の整備
- 国立公園・国定公園の魅力向上、只見柳津県立自然公園の国定公園編入、広域周遊の仕組みづくり等の取組の推進
- 猪苗代湖の環境保全、野生鳥獣の保護管理等、県内の環境保全の取組の推進

≪令和2年度の主な取組状況≫

- ふくしまグリーン復興推進協議会設立（R2.11）
- 尾瀬国立公園尾瀬沼ビジターセンター再整備、磐梯朝日国立公園裏磐梯ビジターセンターの再整備計画策定
- 越後三山只見国定公園拡張（只見柳津県立自然公園の編入）に関して福島県が環境省に申出
- ふくしまグリーン復興のプロモーションの実施やサイクリング・トレイルコース設定等のコンテンツ造成
- 猪苗代湖に関する研究と水環境保全活動を環境省と県が連携して実施
- 帰還困難区域におけるイノシシ等の捕獲（計2,779頭を捕獲）

●尾瀬国立公園の魅力向上

尾瀬沼ビジターセンターについて、展示内容のリニューアル等を実施。



●広域周遊の仕組みづくり

猪苗代湖や磐梯山などの5つのサイクリングコースを地元などの意見を踏まえて設定。



令和3年度の主な取組予定

- ふくしまグリーン復興推進協議会開催（予定）
- 磐梯朝日国立公園満喫プロジェクト「ステップアッププログラム」の策定
- 尾瀬国立公園尾瀬沼ビジターセンターリニューアルオープン
- 越後三山只見国定公園拡張に向けた手続や福島県地域における管理運営計画の策定
- グリーン復興の総合プロモーションやコンテンツの利活用等
- 猪苗代湖に関する研究や水環境保全活動を継続実施
- 帰還困難区域を含む野生鳥獣対策の継続実施 等

今後の方向性

- ふくしまグリーン復興推進協議会等を活用し、自治体、民間事業者など地域の関係者との連携強化を進め、同構想の推進を図る。
- 国立公園満喫プロジェクトや新・尾瀬ビジョンの取組を実行する。
- 国立・国定公園の魅力向上や広域周遊の仕組みづくり等の取組を一層推進する。

「連携協力の概要」

- 県内における省エネルギー対策や再生可能エネルギーの一層の普及促進
- 福島県産水素の利活用
- 上記の取組を通じた未来志向のまちづくりなど地球温暖化対策に実効ある取組の推進

「令和2年度の主な取組状況」

- 「復興×脱炭素まちづくり」にかかるFS調査を6件実施
- 浪江町に立地するFH2Rの水素の利活用に向けた検討（「最適運用管理システムを活用した低コスト再エネ水素サプライチェーン構築・実証」（大林組）等）を実施
- 大熊・双葉環境まちづくりミーティングの開催・とりまとめ
- ゼロカーボンシティ宣言を行った浪江町、楡葉町での勉強会の開催 等

●令和2年度に実施したFS調査の例 水素サプライチェーン構築に係るFS調査

複数の供給源から純度の異なる水素を収集し、水素供給拠点を經由して需要家へ提供するための水素サプライチェーンシステムモデルを検討。



●大熊・双葉環境まちづくりミーティングの概要

第1回(7/19) 将来の構想づくり

2050年の両町の将来について多様な世代や立場の参加者が自由にアイデアを出し合う。

プレゼンする小泉大臣

両町長も交えたトークセッション

第2回(8/23) 地域での事業化

第1回のアイデアをもとに2023年までに着手できる地域でのビジネスモデルを発案。

議論する参加者

第3回(9/12) 将来のビジュアル化

第2回で発案されたビジネスモデルをポスターにより可視化し、人気投票を実施。後日、選定されたポスターをもとに両町それぞれの未来ビジョンを描いた未来図が作成された。

大熊町の未来図 双葉町の未来図

令和3年度の主な取組予定

- 令和3年度予算より「脱炭素×復興まちづくり」推進事業を新たに創設し、FS事業に加え、自立・分散型エネルギーシステムの導入等を推進
- 「最適運用管理システムを活用した低コスト再エネ水素サプライチェーン構築・実証」を継続実施
- 脱炭素×復興まちづくりプラットフォームの設立
- ゼロカーボンシティ宣言を行った自治体への技術的支援の継続実施 等

今後の方向性

- 新たに創設した「脱炭素×復興まちづくり」推進事業（FS事業や自立・分散型エネルギーシステム導入支援等）やプラットフォームの場などを有効に活用しながら、先進脱炭素モデルケース形成を推進

≪連携協力の概要≫

自立・分散・ネットワーク型の社会の形成を視野に入れ、幅広い分野の環境施策において、多様な主体との連携を強化し、レジリエント（強靱）な社会のモデルとなる取組を推進

- ・ 国立公園等におけるワーケーションの促進
- ・ 復興に貢献する再生可能エネルギーの地産地消の推進等に取り組む
- ・ 廃棄物の発生抑制や循環的な利用に関する取組、災害にも強い資源循環スキームの整備促進

≪令和2年度の主な取組状況≫

- 令和2年度第1次補正予算を活用した国立公園内ワーケーション事業への支援
- 大臣出張による裏磐梯でのワーケーションのPR（9/4）
- グリーン復興構想のシンポジウムにおいてワーケーション促進をPR（11/10）
- 磐梯吾妻猪苗代地域のワーケーションに関するPR（雑誌への記事掲載）（3月）
- 福島県産再エネ電力拡大事業のFS調査を実施
- 福島県産再エネ電気の利用促進を図るキャンペーンの実施（3/13）
- ごみ減量化及び、地球温暖化対策に向けた「福島県環境アプリ」の制作

●ワーケーション事業への支援

磐梯朝日国立公園で計5件のワーケーション事業を支援。WiFi等の環境整備、アクティビティ開発、モデルツアー等を実施。



●「福島県環境アプリ」の制作

ごみの減量化や省エネルギーなどの取組を促すアプリを制作。ごみの収集カレンダーなど4つの機能を搭載。



令和3年度の主な取組予定

- ワーケーションに関する情報発信・プロモーション、県内のワーケーション促進に向けたモニターツアー等を実施し、国立公園内ワーケーション事業を推進
- FS調査の結果を踏まえた福島県産再エネ電力拡大事業の実施
- 「福島県環境アプリ」のプロモーション等の実施 等

今後の方向性

- 国立公園等におけるワーケーションの普及促進に取り組み、「ワーケーションの聖地ふくしま」を目指す。
- 多様な主体による再エネの導入・利用促進など、ポスト・コロナ社会を先取りした自立・分散・ネットワーク型の社会の形成に向けた具体的な施策を幅広い分野で推進

≪連携協力の概要≫

- 広く県民や企業、市町村等の積極的な参画を促すため、シンポジウム等の開催や優良な取組の推奨制度の創設など多くの主体の参加を促進・誘導するための取組を行う。
- 福島復興の姿を広く県内外に発信するなど、浜通り地域をはじめ福島県の風評払拭に努める

≪令和2年度の主な取組状況≫

- シンポジウムを4回、連続環境勉強会を2回開催
 - 11/10 ふくしまグリーン復興推進シンポジウム
 - 11/27 「福島再生・未来志向プロジェクト」シンポジウム
 - 12/15 連続環境勉強会 第1回「SDGsで実現するふくしまの未来」
 - 1/15 連続環境勉強会 第2回「持続可能な地域の未来－みんなのローカルSDGs－」
 - 2/9 省エネ・省資源の未来シンポジウム
 - 3/13 いっしょに考える「福島、その先の環境へ。」シンポジウム
- 学生向けのチャレンジ・アワードを実施
- 「福島、その先の環境へ。」と題して、連続した広報キャンペーンを展開。
- WEB、シンポジウム、テレビ・ラジオ等で発信
- 「福島環境再生100人の記憶」発行・配布

●いっしょに考える「福島、その先の環境へ。」シンポジウム

これまでの10年を振り返るとともに、若者をはじめとする県内外の方々と福島の未来に向けたメッセージを発信。



●書籍「福島環境再生100人の記憶」の発行

様々な立場で環境再生に関わった方や地域の復興に取り組みされてきた方など、計100名（組）のお話を収録。震災を体験し、復興に向けて奮闘し続ける方々の記憶と、これからの思いを語っていただいた。



令和3年度の主な取組予定

- 「福島、その先の環境へ。」シンポジウム（3月予定）、連続環境勉強会を数回開催予定。
- チャレンジ・アワードを継続して実施するとともに、新たに環境リブランディング・公募型キャンペーン「FUKUSHIMA NEXT」を実施予定。
- 環境イベント（仮称）を開催予定 等

今後の方向性

- 福島県の風評払拭につなげる、環境先進地域へのリブランディングを推進
- 震災・原発事故や環境再生の記憶を福島の子どもたちへと継承する取組を推進
- シンポジウム等の情報発信を通じて、多くの主体の参画を促進